

鯖街道

熊川宿

若狭熊川宿まちづくり特別委員会

福井県遠敷郡上中町熊川

TEL/FAX (0770)62-0330



熊川いっぶく時代村の風景

昨年に引き続き、熊川いっぶく時代村が、秋の晴天に恵まれて、十月十三・十四の二日間行われ、二万七千人が訪れ賑わいました。街道では、まちかど大道芸として、べっこうあめ細工、江戸錦似顔絵、針金細工、新粉細工、七味唐辛子、そして猿回しなどが行われました。

また、「籠屋でござるin熊川宿」では、九組のグループが参加しました。その結果、「戦る一世紀」(地元の松寿苑で、町内最高齢、百五才の松本みつさん率いるチーム)が、見事優勝されました。

夕方は、三基の「ちようちん御輿」が、町内の小学生など百余名の参加により練り歩きました。

夜は、民謡歌手の恩地美佳さんが、ねばりひき唄や秋田馬子唄などを披露しました。

そして今年も、京都一乗寺伝統芸能保存会の皆さん二十五名が参加くださり、てっせん踊り、熊川音頭の踊りの輪が広がりました。

熊川宿

寄稿文・まちづくりフォーラム……………1

熊川いっぶく時代村……………4・5

寄稿文……………6

行事・活動報告……………7・8

すばらしい熊川宿との出会い

上中町助役 吉田 義治

私が幼少の頃、親戚の倉谷謙治商店に、よく遊びに出かけましたので、熊川には、沢山の想い出が残っています。

時は流れ、改めて今、町並み景観の保存に、大きな関心を寄せている一人でございます。今日迄に、熊川を守る会や、まちづくり委員会に、出席させて頂きまして、二十年の歳月を経て、宿場の再編に努力された方々の熱意が、ひしひしと伝わって参ります。

更に、委員会では、内子町や関宿を研修され、宿場の将来像を創造して来られました。その頃、住民センターにも、町並みや、電線地中化について、総合的に整備を考える委員会が発足し、日夜検討協議が行われました。現在、重伝建の選定に相応しく、山並み、家並みが前川の流れと調和し、美しい景観を造り出しています。

その昔、一日一千頭の牛馬が、京阪神へと荷を運んだ要衝と伺って居りますが、今では、秋の訪れと共に、恒例となりました「いっぶく時代村」や「ふれ味道中」が宿場の中に活気を呼んでいます。この宿場を通り京都へ向かう鯖街道「京は遠ても十八

里」が、歴史国道に認定されると聞もなく、拠点となる「道の駅」が完成しました。全国に発信されるや、名水百選の「瓜割の滝」と共に「町の顔」として、多くの方々から知られる様になりました。

熊川宿は、単なる観光でなく、歴史と共存しながら、いやしの心を育む快適な生活空間として発展する事を願っています。この事を確認し合う、七回目のフォーラムが、今年も松木義民館で開催され、地域の方から「見た目じゃない、住んでいて良かった、と感じられる場であってほしい」と進言されました。いつもながら、吉田桂二先生や、福井宇洋先生から「まちづくりは、あせらず、なまけず、楽しく」とアドバイスがございました。この様に多くの方々の支えによって、熊川宿町並みが、整備されて参りました。これからの新世紀、更に、行政と地域が、一体となって誇れる熊川宿として立派に守り育てようではありませんか。



熊川宿に思うこと

上中町教育委員会事務局長 岡上角 勇

私は今年の四月から教育委員会事務局に異動となり、鯖街道熊川宿関係の仕事にも携わらせて頂いております。

以前から私は、熊川宿は古い建造物や前川、その周囲の環境や生活の香り、永い歴史も含め、大変すばらしい町並みだと思っております。

しかし、それ以上に貴重なのは、地域の皆さんが一体となって町並み保存に取り組まれ、ただ単に観光地化を目指しているのではなく、毎日の生活の中で町並みを生かしていこうという取り組まれ方だと私は思います。

見た目にもきれいに整備された町並みは、日本全国には数多く存在しています。観光客も多く訪れ、土産物屋が軒を連ね、大変にぎやかな観光地として開発されているところがたくさんあります。

しかし個人的には、観光を主に開発・整備された町並みを訪れても、何故かほつとするような「やすらぎ」を感じることはありません。

熊川宿はまだ整備途上です。これから上ノ町、下ノ町の電柱移設、道路・前川の整備を実施しながら、建造物の修復も進められていきます。

そんな中で、熊川の方々が家に生まれ、生活されていく中での町並み保存、いろんな面でご苦労やご不便な面も多々あるうかと思いますが、訪れた人々が町並みに住んでおられる人々の生活の香りが感じられる町並み、やすらぎを感じられる町並みとして発展されていくよう、心から願っています。

最後に、建造物の修復や道路、前川の整備、電柱移転等につきましては皆様方のご協力なくして進めていくことが出来ませんので、今後とも、多大のご指導・ご協力をよろしくお願いいたします。





語り手：藤井美栄子さん、平尾悦子さん
聞き手：吉田桂二先生

古い家と人間の波動がちょうど合うのと違うかな。(平尾)
熊川は住みやすい。知ってる人も多くて、家も明るくなった。(藤井)

第三部・熊川家語り
「町並みにくらすこと」



島田敏男先生(文化庁建造物課調査官)

保存と自由をきっちり切り分けて、熊川らしい町、建物に住んでもらいたい。住んではる人が町をつくっていくやな、と感じた。

第四部・総括講演
「熊川の町並み保存に思うこと」

重伝建・歴史国道・水の郷 選定5周年記念
第7回若狭鯖街道熊川宿 まちづくりフォーラム

とき…平成13年7月22日
ところ…松木神社義民館



村田吉弘先生(京都・菊乃井主人)

関西と関東では水も米も違います。自然から頂いた材料にちょっとだけ何かを足すのが料理。そうすれば自然においしくなってくれる。

第一部・基調講演
「ごころを形にする」



語り手：麻中ヒサさん、尾中一枝さん
聞き手：福井洋先生

あの頃は、よう鯖が売れました。背負うて行った時もある。(麻中)
私も年いったけど、待っててくれはる人があると、やめられん。(尾中)

第二部・熊川昔語り
「魚売りの思い出」

選定5周年記念イベント

もちつき大会と
村田先生のふるさと料理教室

フォーラムの後、来賓の方々にも参加していただき、もちつき大会が行われました。

児童館内では、初代が熊川出身で、京料理「菊乃井」3代目主人の村田吉弘先生に、鯖をはじめ素材を生かした調理の秘訣について教わりました。

暑い中、熊川・町内は元より、全国から多くの方々のご参加を頂きました。ご協力ありがとうございました。



前川に思う

若松 比登美

熊川宿を流れる前川。熊川の人
は昔も今も前川の恩恵を受けて生
きてきた。

野菜を洗ったり、西瓜を冷やし
たり、冬には邪魔な雪を流してく
れる。今はほとんど見られないが、
長い柄のついたひしゃくのような
もので前川の水を道に撒いた。凸
凹道の土埃をおさえ、涼をよんだ。
今年の夏は子供達が集まり、橋の
上に座って、足を流れの中につけ
て遊んでいた。

大雨や工事で水が止まると静か
になる。しかし、妙に落ち着かな
い。水が流れ出すと、ほっとする。
誰もが感じる事だと思ふ。

これからも前川に癒され、お世
話になりながら、熊川の遺産とし
て残していきたい。



「若狭熊川宿てっせん踊り」の復活によせて

一乗寺郷土芸能保存会 河村正男

若狭熊川宿まちづくり特別委員会の会長河合健一氏の訪問をお受けしたのは、平成九年の春のことでした。

氏は、上中町熊川にも、京都から八瀬、大原と鯖街道を経由して伝えられた「鉄せん踊り」なる盆踊りがあった、遠く江戸後期から、明治、大正、昭和初期まで盛んに踊られていたこと、地元歴史家の永江秀雄氏によって、当時名音頭取りと称せられた河合五郎兵衛氏宅より、「若狭熊川てっせん唄本綴（十一曲掲載）」が発見され、その史実が証明されたこと。

この度、「若狭熊川宿まちづくり」が決定したのを契機に、「熊川てっせん踊り」の復活を是非実現したい。その為、京都洛北に一乗寺という所があり、そこでは京都市の無形文化財の指定を受けた「一乗寺鉄扇踊り」があり、今もその保存と継承に努めておられる保存会があるので指導をお願いしてはどうかという永江氏の助言を受けて、伝をたよられ来訪されたのでした。

一乗寺郷土芸能保存会（会長青木善男）として検討に入らせて頂き、「京の鉄扇踊り」が江戸元禄時代に発生し、京の歌舞伎の打ち上げ時や、

祇園、八坂の花街で流行した盆踊りが、やがて京都近郊農村の洛北一帯に（一乗寺もその一つ）

拡がり隆盛、それが鯖街道を経由して、熊川、小浜まで伝わって行ったことに驚くとともに、伝統芸能（文化財）の復活に寄与出来るなら喜んで協力させて頂こうということになりました。

復活へのお手伝いの出発はその年の夏、一乗寺の保存会では、氏神八大神社の八朔祭（八月三十一日）で、「氏子の健康と多幸、並びに五穀豊穡」を祈願して、「鉄扇踊り」の奉納を行なうのが慣例になっておりまして、これを熊川てっせん踊り復活を志された有志の方々に見学させて頂くことから始めました。

引き続き秋には、一乗寺集会所（旧跡一乗寺跡地に建つ）に来て頂き、男子の方には音頭の唄い方、女子の方には踊りの形態を習って頂きました。音頭は録音テープに、踊りの形態はビデオテープに収録して頂き、これをお手本に、ご当地で練習日を決められ定期練習を重ねて頂きました。

翌年の夏には、熊川の方へ保存会の幹部（男女数名ずつ）が二〜三度



寄せて頂き、音頭と踊りをご指導させて頂きました。私も個人で、何度か主として音頭の指導に寄せて頂きました。「熊川宿まちづくり」の竣工までに「熊川てっせん踊り」を習得して、記念式典の祝賀会で披露するという強い大目標を立てられての練習とあって、その熱意がひしひしと教えている私達にも伝わってきたのを覚えております。

平成十一年十月、地元の皆さん待望の「熊川宿まちづくりと道の駅」の整備が竣工しました。

このおめでたい竣工式典のあとの祝賀会で念願の「若狭熊川てっせん踊り」が華やかに披露され、見事に復活を遂げられました。新調のゆかたを身にまとわれ、唄い踊られる様子を拝見しながら、

素晴らしい調子と合唱の音頭に、一糸乱れず手足が揃って、しかも優雅な踊りによくも短時間でここまで上達されたものと感心し、そのご努力に心から敬意を払うとともに、微力ながら復活のお手伝いをさせて頂けた喜びをかみしめつつ、胸の熱くなるのを禁じ得ませんでした。

「若狭熊川てっせん踊り」の復活を心よりお祝い申し上げます。おめでとございました。

「熊川宿まちづくりと道の駅」竣

工後、毎年開催されます「熊川いっぶく時代村」のイベントに毎年「一乗寺鉄扇踊り」が招待頂き、披露させて頂きまして誠に有難うございます。寄せて頂くたびに、てっせん踊りの方はもとより、広く地元の方々との交流の輪が拡がり、ご当地の史跡や歴史、文化を知り、美しい環境に接することで、熊川への親しみと愛着の情が増していくのを感じております。

本年（平成十三年八月三十一日）は、八大神社八朔祭に、「熊川てっせん踊り」の方々をお招きして、合同で「鉄扇踊り」の奉納をさせて頂きました。文字通り一つ檜の上に、熊川と一乗寺の音頭取りが上り、音頭を合唱し、踊り子も一緒に一つの輪を拡げての奉納踊りとなりました。「鉄扇踊り」を通して、熊川と一乗寺が一体となった姿を目の当りにして、強い絆が出来上がったことを確信致しました。

一乗寺の鉄扇踊りは、諸先輩の努力によって、昭和六十二年二月に、京都市の無形文化財の指定を受け、以来今日まで保存会を作って、その保存と継承の活動を続けています。

熊川の皆さん方も、是非「若狭熊川てっせん踊り」の復活のときの初心とご苦勞をお忘れになることなく、文化財として未永く、保存継承を続けられますようお願いしております。

7/30

無料休憩所がオープン

上中町商工会が運営する無料休憩所「ほっと 思い出工房」がオープンしました。



ちよっと一服はもちろん、旅の感想を記したり、熊川宿のPRビデオを観たり、自由にご利用頂けます。

8/15

熊川宿納涼盆踊り

夏の風物詩・納涼盆踊りが開かれました。流行踊り、てっせん踊り、熊川音頭と続き、老いも若きも新調なつたやぐらの廻りを輪になって



踊りました。屋台のたこやきも大好評でした。盆踊りに先だって厳しい残暑の中、この度新調したやぐらの竣工式が行われました。

8/18

美濃の町並みと郡上踊り研修



厳しい暑さの中、地元語り部のご案内で、うだつの上がる美濃の町並みや資料館を見学しました。その後、郡上八幡へ移動、踊り方を習って郡上踊りを見学、参加もしました。

8/31

鞍馬の町並み見学と一乗寺鉄扇踊り参加

京都の奥座敷・鞍馬の町並みを散策しました。夜は、一乗寺八大神社八朔祭のてっせん踊りに参加し交流を深めました。



郷土芸能保存にご尽力された功績を賛えて河村正男さんが京都市より表彰を受けられました。

9/19

第二回まちづくり特別委員会

町並み・川・山を生かして、もう一遍きてもらえるような魅力あるまちづくりをしよう。夏は「名水まつり」、秋は「熊川いっぶく時代村」となるように、みんなで盛り上げたい。……などが話し合われました。

10/10

白石神社参道の灯笼復元



先人の努力により明治三十三年に建立されて以来、長い年月風雨にさらされ風化がひどく危険である事から、この度再建の運びとなりました。石材は従来と同じ来待石(島根県産)で、氏は勿論、町の皆様にもご尽力頂き立派な灯笼に仕上がりました。

10/16

松木神社例祭



今年も晴天の下、若狭の義民松木長操先生の例祭が行われ、高木龍彦宮司により神事が厳修されました。そして献茶、吟、舞が奉納されました。来年はちょうど三百五十回忌の年となります。

10/21

ケナフの葉書作り教室



ケナフの皮をはいで煮てミキサーで細かくし、絞った皮を苛性ソーダ液に漬けて又煮ます。さらにミキサーにかけて金づちでたたいてパルプの出来上り。それを水にほぐしながら金網、木枠等で漉き、乾燥させて出来上りです。



11/8-9

秋田県角館^{かくのたて}へ研修

人々の行き交う町に一步足を踏み入れればそこは本物だけがもつ格調と美しい古の町並みが広がっていた。板塀は角館武士の格式を象徴しているようだ。一般町人の住居とは構造が著しく違う武家屋敷町です。



世界遺産で重伝建の飛騨白川郷へ研修に行ってきました。
小雨に煙る紅葉の山々を背景に、静かにたたずむ合掌造りの家並みは、

10/28

飛騨白川郷へ研修

心のふるさとを感じさせてくれました。
観光地としての町並みのあり方や、そこに住む人々の暮らしぶりを学んできました。



熊川いっぶく時代村 準備風景



毎月10日と20日に開かれてきた踊りの練習会。回を重ねることによく揃ってきました。

従来のちょうちん御輿に加え、今年は小ぶりな子どもちょうちん御輿を2基作りました。



イベント期間中熊川宿の入口と本部を飾った巨大ちょうちん。今年3対を新調しました。

あなたは写っていませんか？

熊川いっぶく時代村 2002年オリジナルカレンダー

完成



熊川いっぶく時代村実行委員会では、イベントのスナップ写真を集大成した「2002年オリジナルカレンダー」を制作しました。

A2判/カラー印刷

企画制作：熊川いっぶく時代村実行委員会

予告 平成14年 熊川いっぶく時代村 9月28日☒・29日☒ 開村決定

お知らせ

ふるさと広報誌コンクール 県町村長賞 受賞



発刊1年余りの本誌が栄誉ある賞を頂いたのも、快くご寄稿頂いた賜であり、また皆様の多彩な活動が認められたものと感謝しております。

あとがき

自然に感謝することを学び、熊川宿の良さをより深く感じた「若狭熊川宿まちづくりフォーラム」。

各地より多くの方々にお越しいただき、みんなで盛大に行われた「熊川いっぶく時代村」。

世界遺産の美しさと、住む人の協力、保存の心構えと難しさを聞いてきた「白川郷の研修」。

今号は、一乗寺でつせん踊りの河村様のご寄稿を頂き、表紙写真をカラー、増ページで行事の様子を中心にお届けいたします。

選定五周年にあたり、たくさんの方々の重要な行事がありました。皆様の協力を心より感謝いたします。

修理や整備も着々と進み、今後は下ノ町の電柱移設や、町並み調査などが計画されております。なお一層美しい「熊川宿」になるものと期待しております。

編集委員



鯖街道熊川宿で2日間のタイムスリップ

熊川いっづく時代村

と き：平成13年10月13日(土)~14日(日)
 と ころ：福井県上中町熊川宿一帯・道の駅「若狭熊川宿」
 主 催：上中町・熊川いっづく時代村実行委員会

オープニング「熊川音頭」

賑やかな熊川音頭で開幕した「熊川いっづく時代村」。オープニングとともに天候にも恵まれ大盛況。2日間で約27,000人の入出で賑わいました。



上ノ町大岩(子守岩)の前にて

籠屋でござる in 熊川宿



さまざまな衣装とパフォーマンスに街道沿いは笑い声と声援に包まれました。



恩地美佳 民謡ライブ&てっせん踊り・熊川音頭

恩地美佳さんの民謡や三味線の音が夜の熊川宿に響き渡りました。てっせん踊りは厳かに、熊川音頭は軽やかに踊りの輪が広がりました。



熊川宿まちかど芸能

針金細工や仮顔絵描き、新粉細工などの壁台が並び人気を集めていました。



ちょうちん御興練り歩き 子どもちょうちん行列

クライマックスのちょうちん行列では威勢のよいかけ声とおはやしや籠の音が町並みに響いていました。



猿回しスペシャルステージ

古式豊かで格式ある「猿回し祭組」によるお猿さんの珍芸に観客は爆笑の連続。

